



ひらもと えいじ  
平本 英司 議員

## 防災対策、警報発令時の小学生への対応、消防庁舎建て替えについて

**問** ①地震発生後の初動、及び住民への防災意識の高揚をどのような手法で行っていくのか。  
②想定外を想定しているのか。

③警報発令時は、避難場所にも指定されている小学校に子どもを避難させたらどうか。また、津波警報発令時の対応について。

④浸水が想定される現在の消防署の位置と、建て替えの予定について。

**答** ①震度5強以上、または大津波警報が発令された場合、全職員が発生規模に応じた初動態勢を取り決めている。防災意識の高揚は、自主防災組織の新規設立や、出前講座等を開催し、継続的に取り組んでいる。

②災害発生時に適切な対応ができるよう、常に想定外が起こり得る可能性

を考えながら対策を進めていく。

③警報発令時に当該児童をどのように登校させるのか、通学路の状況はどうなのかなど、非常に大きな課題があり自宅待機としている。津波警報発令時の対応は現在整理している。

④消防力適正配置計画の中で、できるだけ早く整理し建て替え等の方向性を定めていきたい。



現在の三原市消防庁舎

## 地域の疲弊について

**問** ①合併後の地域の疲弊の実態をどのように捉え、どのように改善していくかと考えているのか。

②支所及び各課にテレビ電話の設置を検討する考えがあるのか。

**答** ①人口の減少や高齢化の進展により、福祉や老後への不安、農業の担い手不足など、地域の活力も低下してきており、これらのことが要因となり疲弊感が生じてきているものと捉えている。改善策としては、さらなる市民サービスの向上に努めるとともに、職員の意識改革など、きめ細やかなサービスの提供を図ることが必要であると考えている。また、地域自らが取り組む活性化に対し、積極的に支援する。

②全ての業務を支所で対応することは困難であり、個別には所管課がある本庁で対応している状況があるので、導入の可能性も含めて調査研究したい。



かむら ひろし  
加村 博志 議員

## インフラの老朽化について

**問** 近年、日本の至る所で危険の芽がどんどん膨らんでいる。道路や橋、上・下水道など高度成長期に集中的に造られたインフラの老朽化が著しい。

50年が寿命とされるインフラであるが、生活の安全や利便性をどのように守り、次世代に引き継ぐか、真剣に考える時期にきている。「長寿命化修繕計画」を策定し、事後保全から予防保全に移行する必要がある。

①橋長15m以上の橋の健全度はどうか。今後の長寿命化工事の進め方は。

②インフラの老朽化を見極める職員の技術力向上の育成は。

③橋梁の耐震補強を実施しているのか。

**答** ①橋長15mを超える171橋の健全度は、損傷が著しく緊急対応の必要性のある健全度1が7橋。健全度2が24橋。健全度3が49橋である。

健全度3以下を対象に被害の恐れが大きい跨道橋や幹線道路橋を優先的に実施していく。

②研修会に積極的に参加し、橋梁定期点検の現場でも講習会など実施する。

③市道の中で耐震補強した橋梁はない。今後長寿命化修繕計画との調整を図りながら、落橋防止等の耐震補強に取り組む。



修繕・耐震化が求められる橋梁

## 入札制度について

**問** 本市で建設業界に従事する方は約3,100人で10年間で43%程度減少している。地域に密着した活動を行い、震災や災害などには欠かせない。建設業界が適正に振興でき、継続できる事が必要である。

小・中学校の耐震改修工事、久井認定子ども園の入札状況は。

**答** 条件付一般競争入札を実施し、大和中学校は6業者、沼田小・沼田西小・第四中は2業者、小泉小は1業者、深小・久井子ども園は入札者なしで再入札し、それぞれ1業者の入札である。

**問** 入札が1・2業者であり、これでは競争入札とは言えない。予定価格が低すぎるのではないか。

**答** 直近の市場価格を用いて積算しており、適正な予定価格での入札と考える。

**問** 入札後、予定価格の内訳を公開してはどうか。

**答** 国・県の動向を調査し研究していく。今後、地元業者の育成を基本とし、公平性、透明性、競争性の観点から入札制度の改善を図る。



仁のおかのりゆき  
議員

## 教育行政の基本方針について 市内小中学校児童生徒の「学力向上」について

**問** 児童生徒の学力について、瓜生教育長は所信の中で「保護者の願いの第一は、わが子に適切な学力をつけてほしいこと

と思う。県教育委員会が実施する基礎基本定着状況調査によると本市の小・中学校は県内上位にある。この状況を当たり前の姿にしていく」と述べた。平成25年度の成果はどうだったか。

**答** 県教委が実施した「基礎・基本」定着状況調査は、昨年度と同様に小学校、中学校ともに全ての教科で県平均を上回っていた。子どもたちや指導者の努力により学力は着実に向上している。

全国学力・学習状況調査では、本市は全国平均及び県平均を上回り、小学校は3位、中学校は5位に位置し、県とほぼ同じ正答率である。

今後効果的な指導の工夫や改善を充実させ、保護者の願いに応える。

## 伝統文化(やっさ踊り)の育成と継承について

**問** 総合学習の時間に学んでいる児童・生徒のやっさ踊り、歌、地方(じかた)を祭りの時、一堂に集めて市民に披露してどうか。

**答** 市内小・中学校の中には総合学習の時間に

踊りや歌、楽器の演奏を学ぶなど、やっさ踊りを継承する取り組みが行われている学校があり、今年のやっさ祭りには小学校8校、中学校1校が出場した。また、近年は高校生や大学生の参加もあり、大きな盛り上がりを見せている。子どもたちは、伝統文化の継承者として着実に成長している。こうした提案を前向きに検討する。

**問** やっさ祭り実行委員会の市の窓口である文化観光課の考えはどうか。

**答** 児童・生徒のやっさ踊り、歌、地方を一堂に集めて披露することについて教育委員会とも連携し、やっさ祭り実行委員会へ提案する。



子どもやっさ

## 特別警報の周知について



萩のよみこ  
議員

**問** ①気象庁より豪雨・地震・津波・台風等の直ちに命を守る行動を取るべき非常事態に特別警報が出される。住民に周知徹底する方法は。②聴覚障害者への対応は。

**答** ①携帯電話等へのメール・音声告知・市ホームページ等で伝達する。今後はコミュニケーションも導入していく。②聴覚障害者へは「びんご聴覚障害者防災連絡協議会」と連携をはかり、よりわかりやすくメール配信をしている。

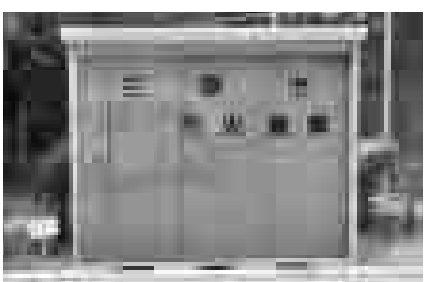
## 災害時要援護者支援について

**問** ①三原市災害時要援護者避難支援プランでは要援護者のうち、同意のあった方を同意者台帳に登録し、個人情報保護の協定を交わした自主防災組織に提供する。6月末

自主防災組織100に對し協定を交わした組織は28である。組織率100%の目標は達成できるか。②協定を締結している団体と考慮中の団体の交流を市が取り持つてはどうか。③事前に消防・警察等へ同意者台帳の提供は出来ないか。④要援護者以外の方も希望すれば名簿搭載できるか。

## 避難場所・防災倉庫・備蓄品について

**問** ①町内に必ず1ヶ所



分散備蓄の為に中学校10校に設置された防災倉庫

②有効な取り組みとして検討する。③避難指示発動時は警察・消防・団体に協定締結していなくても提供するが平常時には締結した団体に限る。④病弱者や妊婦等も本人の希望で名簿搭載できる。

は避難場所等が設置できないか。②誰が防災倉庫の鍵を管理しているか。③備蓄品に紙おむつ・粉ミルク・生理用品・アレルギー対応の非常食等はあるか。

**答** ①一時避難場所・集結場所になる施設として89の都市公園を考えている。ショッピングセンターの駐車場等も活用できるよう働きかけていく。②防災倉庫は分散備蓄の一環として、今年度中学校10校に設置した。防災倉庫の鍵は市・学校・地域の3者での管理を考えている。③市は紙おむつ・粉ミルク・衛生用品等の備蓄を行っている。非常食のアルファ米の一部はアレルギー対応食である。



かめやま ひろふち  
亀山 弘道 議員

## 「平和教育」推進について

**問** 今年度、各学校で平和記念日にかかわる取り組みが実施されたか。

**答** 8月6日あるいはその前後を登校日にして平和学習の取り組みを行った学校は、小学校7校（22校中）、中学校8校（10校中）である。

**問** 昨年度、社会見学等で広島平和公園・資料館

見学が実施されたか。

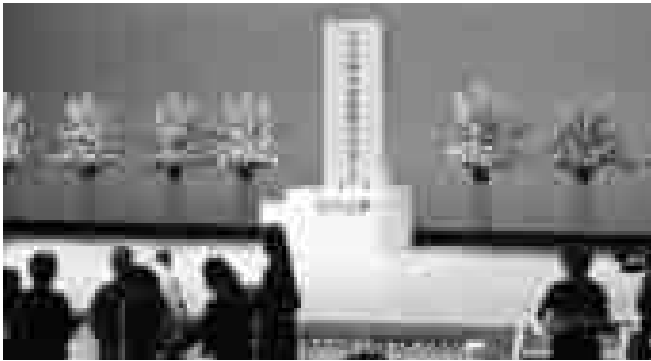
**答** 昨年度社会見学等で実施した学校は、小学校13校（30校中）、中学校2校（10校中）である。

**問** 各校に県教育委員会の方針に基づく平和教育年間指導計画があるか。

**答** 学校によっては個別の年間指導計画を用意したり、あるいは各教科の指導計画の中に計画的に位置づけたりとさまざままだが、計画的に実施している。

**問** 今後どのような進め方があるか。

**答** 本県が人類史上最初の被爆県であることも踏まえ、積極的に世界の平和と国際社会に貢献する人づくりに基本とする本市の平和教育の推進に努めていく。



2013三原市戦没者・原爆死没者追悼並びに平和祈念式典

## 学校の男女混合名簿使用について

**問** 学校で男女混合名簿を使用するようになったのは、女子差別撤廃条約が国連総会で採択され、日本も1985年に締結したのがきっかけで、子どもの期間に、毎日9年間も、男女を区別することや「男が先・女は後」という経験を積み重ねて「男性優遇」という刷り込みを

してはならないと判断したからだ。しかし、近年、男女別名簿に戻す学校が出てくるが実態はどうか。

**答** 3割の学校が男女混合名簿、7割が男女別名簿を使用している。

**問** 男女共同参画社会の実現に逆行していると思うが、教育委員会としてどのように考えているか。

学校の都合より、子どもへの影響を考えてほしい。  
**答** 学校において、男女を区別したほうが都合のよい場合があり、総合的に判断して、校長が決すべき事柄であると捉えており、男女共同参画とはまったく別の問題だと考えている。



すみだ まこと  
住田 誠 議員

## 機能的で効率的な公共施設の配置見直しについて

**問** 市内各所に点在しているさまざまな公共施設が、それぞれの目的を成すための機能、役割を十分に発揮できるように、現状を白紙にして考え直す「街全体の公共施設の適正配置計画」（各施設の資源や発生エネルギーの相互利用なども考慮）という基本構想（50年程度の長期計画）が必要だと考えるがどうか。

**答** 本市の公共施設の老朽化、財政事情、人口構成の変化、住民ニーズや利用状況の変化などから、長期的な視点で公共施設のあり方を見直す必要があるかと判断し、平成24年度から公共施設マネジメントの取り組みについて研究を開始しており、来年度からは具体的に個別の施設調査に着手する。施設の量の見直し、安全性や快適性の

サービスを向上させる質の見直しという基本方針も検討する。

## 本市、本県の発展に必要な広島空港からの交通基盤整備について

**問** 悪天候や交通事故などで広島空港リムジンバスの運行はかなり不安定な状況にある。本市も県も発展すると予測する「軌道系アクセス」の必要性について、市長の考えを聞きたい。具体的な提案として、現状の路線上に新幹線新駅を設け、空港までをモノレールで連結するルートはどうか。また、他都市の例もあるように、空港の名称、

例えば「広島やっ

さ空港」などで三原をPRする考えはないか。  
**答** 採算面の問題や、新たな財政負担、今後の空港利用者数の変化など、さまざまな課題を考慮していく必要がある。提案は、将来的な課題として受けとめる。空港が充実しなければ県の発展はないという考えから、県知事にダイレクトで話をしている状況で、今後も重ねて、国・県に要望していく。



広島空港



しちかわ よしあき  
七川 義明 議員

## 市民協働のまちづくりについて問う

景気が長期間低迷する中、限られた財源での経済の活性化や元気のあるまちづくりをするには、今以上の知恵と工夫が必要になると思うが、以下4点について問う。

**問** ①まちづくりの基本的考え方について  
②活動に対する担い手の課題について  
③集会施設の整備について



市内の集会施設

**答** ①一人ひとりの市民が持つ活力を、まちづくりに活かすことのできる仕組みが必要と考えている。行政と市民が、対等なパートナーシップとして、連携・協力すること。いわゆる市民協働が必要不可欠である。

**②**市民協働に対する意識を高め、住民組織への加入や市民参加の促進を図り、市民協働の担い手を

## 教育行政について

長期不況や少子化の中

育成することは、大変重要と考えている。引き続き取り組んでいく。

**③**公の集会施設の配置については、関係部局と連携のもと検討する。実態調査も併せて検討する。  
**④**地域集会所施設等補助金制度、町内会放送施設への助成、住民組織活動補助金や住民組織協力費により支援を行う。

で、子どもたちを取り巻く環境は多様化し課題が複雑化していると思うが、2点について問う。

**問** ①過去3カ年の高校進学状況と定着状況について  
②教育長としての学校教育における理念について

**答** ①高校進学の割合は、平成23年度98・6%、平成24年度99・4%、平成25年度99・2%である。進学した生徒が高校を中退している状況については、把握していない。  
②子どもは宝そのものではなく、光り輝くことを夢見ている原石である。将来の三原を担う原石を、しっかりと磨くことが学校教育の在り方であると思っている。

学力の定着と向上に全力を注ぐ。また、心身ともに、健全な子どもへの育成を図っていく。さらに体力・運動能力の向上も重要な使命である。全国から三原の教育を知りたい・学びたいと多くの視察訪問を受ける三原教育を目指していく。

## 市議会の傍聴においでください

三原市議会の本会議と、すべての委員会などが傍聴できます。

傍聴をする際、事前の申し込みは必要ありません。当日に、議会棟2階にあります議会事務局において簡単な手続きを行うだけで傍聴ができます。

本会議・委員会等の予定は、三原市議会ホームページに掲載し順次更新しています。議会の活動や市政の方向を知るためにも、ぜひ傍聴においでください。

